

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立富士中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

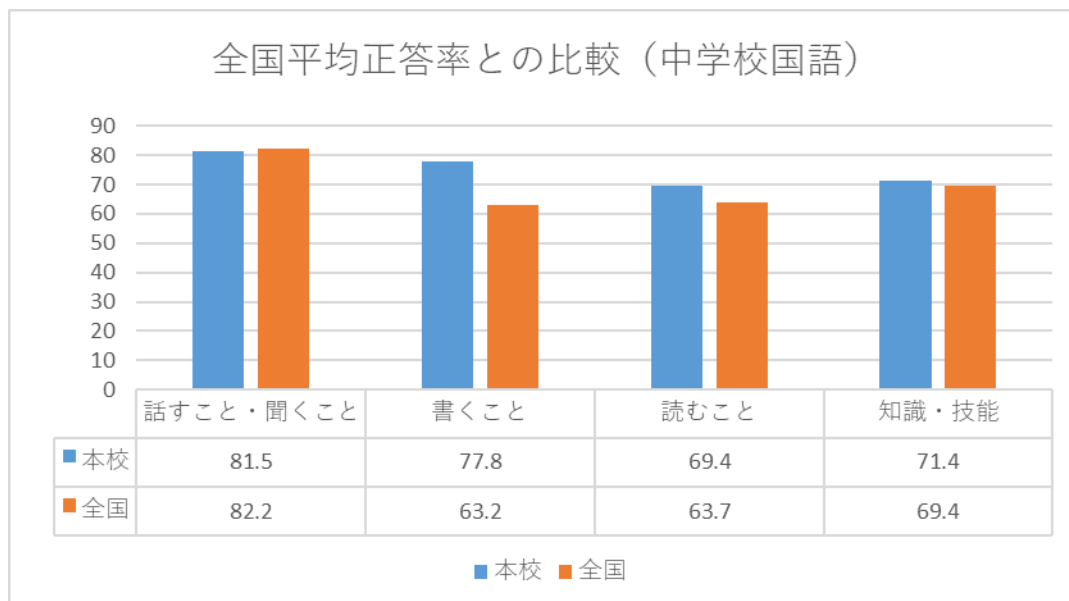
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語(中学校)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

多くの項目で、全国平均正答率を上回りました。特に「書くこと」においては、全国平均を 14.6 ポイント上回りました。しかし、「話すこと・聞くこと」の項目のみ、0.7 ポイント下回りました。また、無解答率をみると、全問題で0となっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が 2.0 ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の基盤となる言語力であり、日頃の漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。問題形式も「選択式」「短答式」「記述式」のすべての形式における正答率も全国平均を上回っています。上記、平均を下回ったと述べた「話すこと・聞くこと」については、「インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く」問題と、「相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する」問題の2問が下回りました。思考操作に関わる用語の学習と共に、客観的に判断できる学習で補いたいと思います。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

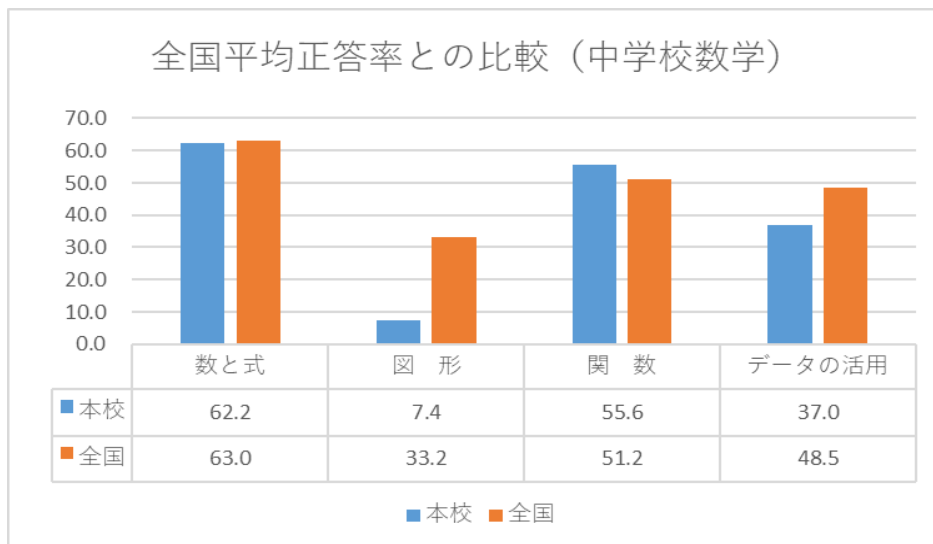
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

2 数学



(1) 結果

領域に大きく差があり、「数と式」や「関数」は全国平均を上回っていますが、「図形」や「データの活用」が全国平均を大きく下回っています。無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「C 関数」の領域の、表やグラフから必要な情報を読み取ったり、問題の計活方法を数学的に説明したりする問題の正答率が全国平均を上回っていました。

しかしながら、「B 図形」の領域の、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明したり、成り立たない理由を言葉を用いて記述したりする問題の正答率が全国平均を下回っていました。

今後、図形の観察や操作活動などを通して、図形の意味や性質を考えることができるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

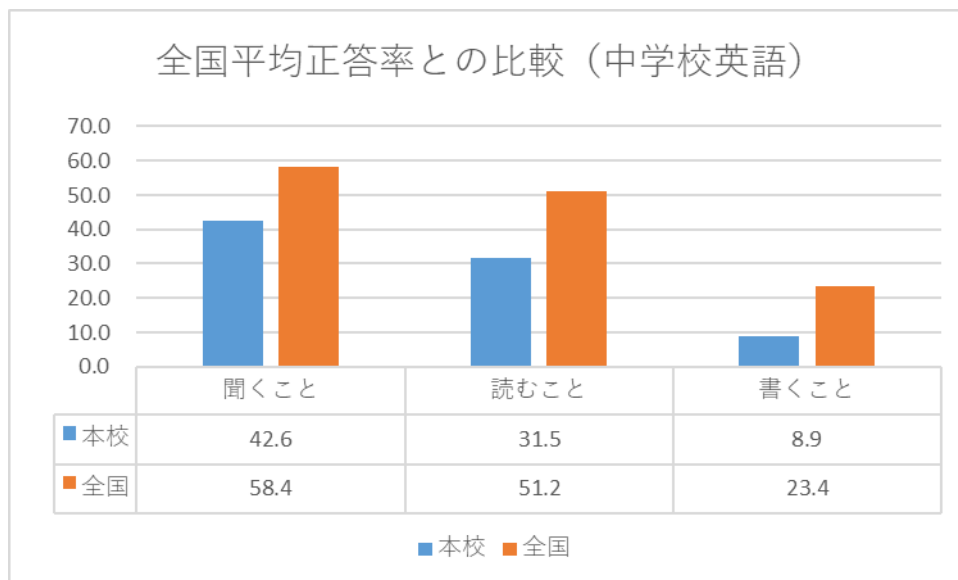
【学校では】

- 朝の小テストの充実や課題などの提出率向上に努め、計算力などの底上げを行います。また、単元毎の基礎的な内容も取り入れ、確実な習熟を目指します。
- 数学で学習する用語を使いながら、自分の意見や考えを書く時間を確保します。また、発展問題では、知識・技能のつながりがあることを意識させ、活用力の向上を図ります。
- 個別指導、ノートチェック、プリント、ワーク、家庭での課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、視覚的に分かりやすい授業の実践に努めるとともに補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- 数学は毎日1問でも解くという習慣が力につながります。多くの問題に挑戦、いろいろな解き方を学ぶことが大切です。課題やテストに目を通し、今何を学習しているか、確実に理解できているか、解くのどれだけの時間がかかっているかを把握し、たくさんの励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 数学を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で数学を発見してみてください。「料理で割合」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには数学を使えるものや考え方が意外とあります。

3 英語



(1) 結果

全ての領域で全国平均を下回っています。特に「読むこと」については、全国平均よりも20ポイント近く低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、全体的に全国平均を大きく下回っていましたが、「聞くこと」の領域における、「日常的话题について、必要な情報を聞き取る」問題では、全国平均正答率を 5.6 ポイント上回っています。「読むこと」においては、「事実と考えを区別して読む」問題については、全国平均を上回っていました。「聞くこと」も「読むこと」も、社会的な話題についての問題でより課題がみられました。「書くこと」について語彙力、文の作り方、文法の知識といった基礎・基本に関わる部分に大きな課題がみられました。無回答率は全国平均よりも低く、多くの問題で無回答者 0 で、諦めずに問題に取り組む様子がうかがえます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業において、学習者用デジタル教科書、デジタル教材などを活用しながら、自分にあったペースで学習を進めることができるような工夫をします。
- 読んだことについて話す活動や、聞いたり読んだりしたことについて書く活動など、複数の領域を統合した言語活動の充実を図ります。
- 基礎・基本の定着を図れるような宿題を工夫したり、定期的に小テストを行ったりします。

【ご家庭では】

- 生徒たちには、家庭でも使えるデジタル教材(e スタディ)を紹介していますので、ご活用ください。
- 単語や基本文を覚えるためには、地道な練習が必要です。英語学習への意欲が高まるような励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 英語の知識だけでなく、世界の文化、習慣、社会的な問題、科学的な情報など、多方面へ関心を広げてほしいと思います。ニュースや新聞の記事などで、家庭での話題に取り上げていただけたらと思います。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した生徒の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	66.7%	78.6%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	55.6%	34.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	55.6%	54.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	55.6%	37.2%
将来の夢や目標を持っていますか。	55.6%	39.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	100%	71.7%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	88.9%	80.3%

朝食については全国平均を下回っていますが、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と答えた生徒はいませんでした。起床・就寝については全国平均を上回っており、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムは、概ね身に付いているようです。自己肯定感や規範意識の項目については、肯定的な回答をした生徒は全国平均よりも高い結果が出ています。全員が「人の役に立ちたい」と答えており、思いやりの気持ちや社会の一員である自覚を持っているようです。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	0.0%	15.3%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	0.0%	10.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	22.2%	23.4%
「1時間以上、2時間より少ない」	55.6%	32.1%
「30分以上、1時間より少ない」	22.2%	18.0%
「30分より少ない」	0.0%	9.9%
「全くしない」	0.0%	6.0%

家庭での計画的な学習の実施については、「当てはまる」と答えた生徒はおらず、「どちらかといえば当てはまる」が55.6%、「どちらかといえば当てはまらない」が44.4%でした。学習時間については6割弱の生徒が「1時間以上、2時間より少ない」と答えており、質、量ともに、主体的な学習が身に付いているとは言い難いようです。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 生徒自身が見通しをもって学習に取り組むことができるよう、授業では毎時間「めあて」と「振り返り・まとめ」を提示するなど、昨年度に引き続き、誰もがわかる授業内容の工夫と指導方法の向上に努め、さらに個別の対応にも力を入れていきます。
- 各教科からの宿題に加え、引き続き、自主学習(自学)への取り組みを行っています。授業中に学習内容について助言したり、提出された自学ノートに対して、教科担当からアドバイスしたりして、充実を図ります。毎週月曜日には、朝テスト(5教科)を行っています。試験の範囲は前週に知らせ、週末に学習に取り組めるようにしています。
- 朝の会の前に朝読書を行っています。図書館と連携して中学生に読んでほしい本などを紹介したり、全員で同じ本を読む機会を持ったりして、読む本の幅を広げるよう工夫しています。

【ご家庭では】

- 学習においては、毎日継続することが大切です。学習習慣が身に付くまでは、確認の声かけ、習慣が身に付いた生徒に対しては、内容の質を向上させていけるよう励ましの声かけをお願いします。今年度は前期中間テスト、後期中間テスト以外に、各教科で単元テストを行っています。計画的に、継続的に家庭学習を進めることができているか、ご家庭でもお声かけをお願いします。